

令和4年度 第2回大阪府豊能地域救急メディカルコントロール協議会議事概要

日時：令和4年12月21日（水） 午後2時00分から午後4時00分

■ 議題

- 1 傷病者の搬送及び受入れの実施基準 医療機関リスト（消防機関向け）令和5年1月（豊能圏域版）について
- 2 大阪府救急搬送支援・情報収集分析システム（ORION）を用いた救急搬送指標について
- 3 実施基準検証について
- 4 その他

■ 議題1 傷病者の搬送及び受入れの実施基準 医療機関リスト（消防機関向け）令和5年1月（豊能圏域）について
 <質問・意見> 特になし

■ 議題2 大阪府救急搬送支援・情報収集分析システム（ORION）を用いた救急搬送指標について

<質問> 別紙1 医療機関別の応需率については、自院分のデータを確認することは可能か。

<回答> 抽出条件がわかれば、確認可能。

<質問> このデータはORIONを使用している全体なのか、大阪府全体なのか、豊能圏域内の数字なのか。

<回答> 豊能圏域の救急が搬送したデータとなっている。

«主な意見等»

- ・ 豊能二次医療圏では、民間病院の病床数が4割であり、大阪府の8割と比べて少ない。また、国立循環器病研究センターと大阪大学医学部附属病院の二つの特定機能病院があり、他圏域からの患者の流入も多い。それらのことから、二次救急に割ける病床数が不足していると思われる。大阪府からは病床削減を進めるというられるが、豊能圏域としては、病床は足りないのではないか。
- ・ 第8波では救急搬送困難事例が増加しており、救急が逼迫している。救急隊の中での感染防止対策はしっかりとしているが、人員が不足している状態である。一定時間病院が決まらない状況が続くと救急車も不足するので、避難的に患者を収容する入院待機ステーションを作ることではないか。また、そこでコロナの検査ができれば、病院側も受入れやすいと思われる。
- ・ 医療機関別の応需率については、件数だけの割合で示されているが、病床数と受入れ件数で見えていくことも必要ではないか。
- ・ コロナの対応に人員が割かれ、病床が空いても人員不足で患者受入れできないという状況がある。
- ・ 患者を受け入れても、その先に受け入れてくれる転院先の病院が豊能圏域では見つかりにくい。
- ・ コロナに関する意識が緩くなってきているので、行政はしっかりと市民に対する啓発をしてほしい。

■ 議題3 実施基準検証について

<質問・意見> 特になし

■ 議題4 その他

(1) DNAR事例対応検討ワーキンググループについて

- ・ DNAR事例対策検討ワーキンググループ設置要領及び委員名簿について、承認

<質問・意見> 特になし

(2) 新型コロナ陽性者の重症病態の患者移送について

- ・ 令和4年7月の豊能地域救急メディカルコントロール協議会にて協議し、7月下旬から、新型コロナに罹患している重度患者を迅速に必要な医療に繋ぐことを目的に、重症患者（赤1）の場合、「夜間（18時から翌朝9時まで）」の時間帯は保健所を介さず直接搬送するルールを運用した。
- ・ 令和5年1月以降、対応の時間帯を「24時間対応」に拡大することで、了承。